春日井の大木・名木 50選



春日井自然友の会

まえがき

春日井市では昭和42年に「緑化都市」宣言がされ、昭和48年に「緑化の推進に関する条例」が制定されました。この条例には、緑豊かな環境を確保するために「保存樹等の指定」が定められ、1,000 本以上の樹木が保存樹に指定されました。その後の都市化による区画整理事業やその他の開発等により伐採を余儀なくされたり、生育環境の悪化により枯死したりして、現在は 600 本余に減少しています。

現存する大木や名木が長い年月を風雪に耐えて生育してきたのは、 その樹木にとって適した環境が保たれていたり、人為的に保護されて きたからです。これらの大木・古木・名木は故郷の歴史の証であり、地 域のシンボルとして末長く生き続けることを願うばかりです。

本会では自然調査の一環として、市指定の保存樹とともに市内全域の大木・古木・謂れのある特殊な樹木も調査・記録してきました。

この冊子では、調査樹木の中から観察しやすい場所にある 50 本と 謂れのある 3 本を選びました。

顧問の波多野茂氏には調査・執筆など全般にわたってご指導いただきました。また、この調査にご理解とご協力いただきました各位に厚くお礼申しあげます。

この冊子が郷土の樹木や自然に親しむきっかけになれば幸いです。 樹木所在地を記載していますが、私有地などみだりに立ち入ること ができない場所もあります。観察には十分な配慮をお願い致します。

平成28年 2月

春日井自然友の会 会長 大橋 博

みんなで緑を育て 自然を守ろう

(春日井市 市民の誓いより)

市の木「けやき」

大空に向かって伸びる「けやき」の生きる力とたくましさが、 将来に向かって成長する「春日井市」の無限の可能性 を象徴しているとして「けやき」を市の木とした。

市の花「さくら」

市制 30 周年を記念して、市章の外わくに使われている「さくら」を市の花とした。

≪表紙写真:春日井市の木 ケヤキ≫

目 次

まえがき

1. 樹木調査の概要	1
(1) 幹周·根元周3m以上の樹種別本数	2
(2) 樹種別最大幹周・根元周及び本数	3
2. 大木·名木 50 選	
(1) 西部地域 ·····	5
①~②	7
(2) 東部地域 ·····	
②~⑤······	35
(3) その他	
⊘~ ∅·······	59
あとがき	

1. 樹木調査の概要

本会では平成 20 年度から市内全域の樹木調査を進めてきました。 調査・記録した樹木は 1,004 本で、25 科 63 種でした。そのうち保存 樹は 579 本、その他の樹木は 425 本です。また、1,004 本以外にシ デコブシの自生樹633本も確認しています。

測定法は地上 1.3mで「幹周」を計測し、株立ちの樹木は根元の 周りを計測して「根元周」として表記しました。

調査・記録した樹木中、幹周・根元周が 3m以上の樹木は 10 科 17 種、98 本を記録しました。32 本がクスノキ、23 本がツブラジイで 50%以上を占めています。

市内で最大の幹周の木は 5.41mのクスノキであり、根元周の最大の木も 6.63mのクスノキでした。

市内の大木・名木の多くは神社や寺の境内や叢林、学校や民家で 庭木として大切に保護されてきたものです。樹種は、この地域の自然 林を構成するものが多く見られました。

調査を進めている間にも、樹種中最大の木が枯死していたり伐採されていたりして、残念な思いをすることがありました。

(1)幹周·根元周 3m以上の樹種別本数

樹木名	本数	科 名			
	1 321	エングラー体系	APGⅢ体系		
クスノキ	32本	クスノキ科	クスノキ科		
ツブラジイ	23本				
アラカシ	6本				
ツクバネガシ	3本	ブナ科	ブナ科		
アベマキ	2本				
ウラジロガシ	2本				
ケヤキ	6本		ニレ科		
エノキ	2本	ニレ科	アサ科		
ムクノキ	2本		アサ 州 		
ヤマザクラ	6本	バラ科	バラ科		
ソメイヨシノ	3本	ハン行	ハノ 11		
イチョウ	2本	イチョウ科	イチョウ科		
トウカエデ	2本	カエデ科	ムクロジ科		
ヒノキ	2本	ヒノキ科	ヒノキ科		
₹≷	2本	マツ科	マツ科		
クロガネモチ	2本	モチノキ科	モチノキ科		
アカメヤナギ	1本	ヤナギ科	ヤナギ科		
17樹種	98本				

(2)樹種別最大幹周・根元周及び本数

樹木名	科 名	株立	幹周 cm	50 選	最大樹木所在地	調査 本数
クスノキ	クスノキ科	0	663	35)	松本町 諸大名神社	146本
エノキ	ニレ(アサ)科	0	566	48	旧中央線6号トンネル	21本
アラカシ	ブナ科	0	555	30	神屋町 八幡神社	41本
ツブラジイ	ブナ科	0	532	17)	町屋町 神明社	126本
アカメヤナギ	ヤナギ科	0	517	(5)	牛山町 牛山公園	3本
ヤマザクラ	バラ科	0	485		見性寺から尾根北向斜面	33本
イチョウ	イチョウ科		462	28	西尾町 天王様	28本
ケヤキ	ニレ科		427	15	鷹来町 名城大学	21本
ツクバネガシ	ブナ科	0	425	21)	小木田町小木田神社	42本
モミ	マツ科		410	39	内津町 巌屋神社裏	4本
ソメイヨシノ	バラ科	0	370		西山町 西山小北の墓地	11本
トウカエデ	カエデ(ムクロジ)科		337	22	上条町 大日社	6本
ウラジロガシ	ブナ科	0	330		見性寺から尾根北向斜面	6本
クロガネモチ	モチノキ科	0	324	6	大手町 八幡神社	165本
ムクノキ	ニレ(アサ)科		320		神屋町 松浦宅	52本
アベマキ	ブナ科	0	318	37)	大留町 天導塚公園前	70本
ヒノキ	ヒノキ科		315	29	明知町 日吉神社	59本
コナラ	ブナ科		290		春日井町字七ツ割墓地	8本
カゴノキ	クスノキ科		282	38	大留町 子安神明社	3本
ヤマモモ	ヤマモモ科	0	280	43	廻間町 大谷山中腹	6本
クロマツ	マツ科		275	8	前並町 前並誕生講	10本
スダジイ	ブナ科		273		松本町 諸大名神社	11本
シラカシ	ブナ科	0	272		篠木町 神明社	46本
タブノキ	クスノキ科		272	26	松河戸町白山神社	3本
エドヒガン	バラ科	0	250		熊野町 密蔵院	1本
イチイガシ	ブナ科		248	36	堀ノ内町神明神社	3本
ヒガンザクラ	バラ科		248	20	朝宮町 覚成寺	1本
シダレザクラ	バラ科		243	40	内津町 内々神社庭園	1本
ヤマモミジ	カエデ(ムクロジ)科	0	238	9	宮町 両社宮社務所	1本
イロハカエデ	カエデ(ムクロジ)科		237		小木田町小木田神社	6本
カキノキ	カキノキ科		235	45	廻間町 鈴木宅	3本

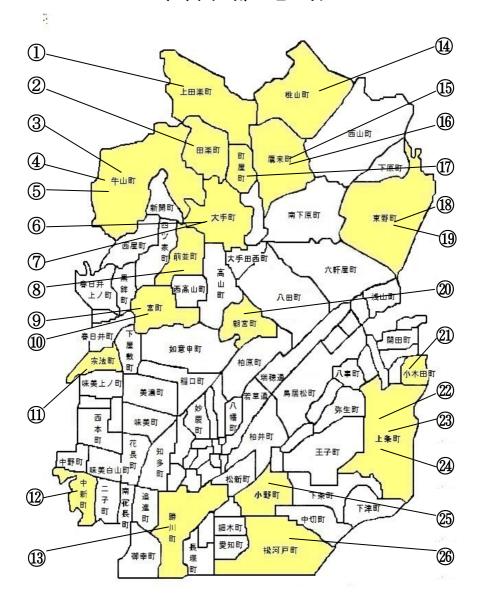
樹木名	科 名	株立	幹周 cm	50 選	最大樹木所在地	調査 本数
タマミズキ	モチノキ科		232	27)	西尾町 岩ケ根山中	1本
スギ	スギ(ヒノキ)科		230		西尾町 安祥寺	8本
センダン	センダン科		230		熊野町 密蔵院	2本
ツガ	マツ科		224		松本町 諸大名神社	2本
ニワウルシ	ニガキ科		215		西尾町 安祥寺	2本
タラヨウ	モチノキ科		211	42	内津町 見性寺	2本
イヌシデ	カバノキ科		210		内津町 内々神社西	2本
モチノキ	モチノキ科		210	16	鷹来町 名城大学農学部	1本
ハクモクレン	モクレン科	0	201		牛山町 梅田宅	1本
ギンモクセイ	モクセイ科		200		桃山町 高橋宅	1本
クリ	ブナ科		197		熊野町 真宝寺	3本
コゴメヤナギ	ヤナギ科		190		下原町 松原神社	1本
ユリノキ	モクレン科		180		熊野町 富田宅	1本
カイヅカイブキ	ヒノキ科		178		知多町 東漸寺	1本
ホオノキ	モクレン科		175		内津町 前川宅	3本
ヤブツバキ	ツバキ科		174		外之原町字前田	5本
ゴヨウマツ	マツ科	0	174	31)	坂下町 坂下小学校校庭	2本
オオヤマザクラ	バラ科		160		篠木町 7丁目	1本
シャシャンボ	ツツジ科		151	7	大手町 八幡神社	5本
セイヨウナシ	バラ科		150		鳥居松町鳥居松公園	1本
ニッケイ	クスノキ科		144		岩野町 鈴木宅	1本
イヌマキ	マキ科		142		鳥居松町友松宅	1本
サザンカ	ツバキ科	0	137	3	牛山町 麟慶寺	4本
サルスベリ	ミソハギ科		135		内津町 内々神社	1本
モッコク	ツバキ(モッコク)科		134		東山町 松原神社	6本
タイサンボク	モクレン科		122		勝川町 山川宅	1本
ボダイジュ	シナノキ(アオイ)科		120		熊野町 密蔵院	2本
ナギ	マキ科		115		林島町 石黒宅	2本
サカキ	ツバキ(モッコク)科		100		篠木町 秋葉様大杉龍神	1本
ムクロジ	ムクロジ科		98		東野町 梅村宅	1本
ニガキ	ニガキ科		78		上条町 和爾良神社	1本
シデコブシ	モクレン科		73		廻間町 少年自然の家	1本

※科名の()内はAPGⅢ分類科名

1,004本

2. 大木·名木 50 選

(1)西 部 地 域



No.	樹木名	株	幹周	町名			
IVU.	倒小石	<u> </u>	cm	叫石	倒个別任地		
1	クスノキ		395	上田楽町	伊多波刀神社 社務所前弓道場内		
2	クスノキ		400	田楽町	鷹来小学校校庭		
3	サザンカ	0	137		麟慶寺境内		
4	クロガネモチ		188	牛山町	瑞林寺境内		
(5)	アカメヤナギ	0	517	牛山町	牛山公園内南西芝生広場の南端		
6	クロガネモチ	0	324	大手町	八幡神社拝殿東側		
7	シャシャンボ		151	大手町	八幡神社拝殿西側		
8	クロマツ		275	前並町	前並誕生講碑脇		
9	ヤマモミジ	0	238	宮町	両社宮神社社務所裏庭隅		
10	ツブ ラ ジイ		409	宮町	両社宮神社参道中程 小学校側		
(1)	ソメイヨシノ		314	宗法町	宗法町墓地		
(12)	クロガネモチ		269	中新町	横井宅		
13	エノキ		293	勝川町	太清寺 西門		
14)	クスノキ		541	桃山町	高橋宅		
<u>(15)</u>	ケヤキ		427	鷹来町	名城大学農学部内		
16)	モチノキ		210	鷹来町	名城大学農学部内		
17)	ツブ ラ ジイ	0	532	町屋町	神明社拝殿の東側		
18	クロガネモチ		270	東野町	落合池南堤防上(公園管理棟前駐車場南東)		
19	ソメイヨシノ	0	366	東野町	落合池南堤防上(落合池改修記念碑の西)		
20	ヒガンザクラ		248	朝宮町	覚成寺本堂前		
(21)	ツクバネガシ	0	425	小木田町	小木田神社境内左側		
22	トウカエデ		337	上条町	和爾良神社飛地大日社 スパー「ウオトク」隣		
23	クロガネモチ		278	上条町	大光寺 本堂前		
24)	クスノキ		468	上条町	和爾良神社 本殿左奥		
25)	クロガネモチ		210	小野町	小野小学校校庭		
26	タブノキ		272	松河戸町	白山神社本殿裏		

① 伊多波刀神社のクスノキ

クスノキ科 常緑広葉樹 関東以西~九州に分布

幹周 395cm 樹高 約22m 樹齢(推定110年)

所在地 上田楽町3454



このクスノキは 社務所前の弓道 場内にあり大きく 枝を広げている。

広い社叢には、 幹周3mを超える クスノキが3本 在し、ウラジイ・ツ ラカシ・ツクロガネ チなどの大 シーン チなどのと繁 いる。

秋の例祭の「流鏑馬」は、市の無形民俗文化財に指定されている。

② 鷹来小学校のクスノキ

クスノキ科 常緑広葉樹 関東以西~九州に分布

幹周 400cm 樹高 約19m 樹齢(推定110年)

所在地 田楽町1845



このクスノキは学校の運動場に悠々と高くそびえている。

児童たちも学校自慢のシンボルとして大切にし、校歌にも「雲にそびえるクス ノキは・・・」と歌われている。

明治35年田楽尋常小学校の大林斉校長が、学校や地域を豊かな緑に包もうと実生から育てられたものである。明治38年3月22日の学校日誌に「大林先生の苗90本余植付けせり」の記録があり、日露戦争終結を記念し各地に配布植樹された。

新徳寺・大手八幡神社・伊多波刀神社等のクスノキもこの時植樹されたものといわれる。

③ 麟慶寺のサザンカ

ツバキ科 常緑広葉樹 九州・四国~沖縄に分布

根元周 137cm 樹高 約3m 樹齢(不詳)

所在地 牛山町322



このサザンカは境内の前庭にあり、2本の株立ちで枝張4mの円盤状に 仕立てられている。

サザンカは日本固有で分布の北限は佐賀県千石山南麓とされ、天和4年(1684)に刊行された立華正道集に「山茶花」と紹介されたのが最初。その後品種改良され元禄8年(1695)には50品種あったことが「花壇地錦抄」に載っている。

サザンカは、耐寒性の小高木で、花色は白が普通であり紅・淡紅・紅絞り・八重など種々知られ、晩秋から初冬にかけての景物として趣があり、清楚さ上品さがあり茶人・俳人に愛されている。

境内には、他にクロマツ(145cm)とクスノキ(288cm)の保存樹がある。

当寺は木曽御嶽山を開いた覚明行者の譜代寺で、江戸末期と思われる 覚明行者の位牌と墓碑がある。

④ 瑞林寺のクロガネモチ

モチノキ科 常緑広葉樹(雌雄異株) 福井県以西~沖縄に分布

幹周 188cm 樹高 約5m 樹齢(推定450年)

所在地 牛山町1367



このクロガネモ チは幹の内部が 枯れ朽ちており、 風雪に耐え抜いて きた生命力に驚 かされる。

根元には地蔵尊が祀られている。

かって境内には 多くの樹木が見ら れたが、今は一本 のみとなり寂しい。

和尚の話によると樹齢は寺の年代と同じほどとのこと。

寺は天文21年 (1552)創建であ り、樹齢は450年 を越える事とな る。

クロガネモチは郷土の常緑広葉

樹林内に普通に見られ、枝打ちに強く、風格をそなえた樹で、樹名も「クロガネモチ(金持ち)」と縁起も良く、旧家の屋敷に大木が多く見られる。

⑤ 牛山公園のアカメヤナギ

ヤナギ科 落葉広葉樹(雌雄異株) 北海道~九州に分布

根元周 517cm 樹高 約12m 樹齢(不詳)

所在地 牛山町3103



このアカメヤナ ギは7本の株立ち (194cm·165cm· 146cm·140cm· 104cm·97cm他) で、公園内芝生広 場の南端に雄姿 が見られる。

幹が根元で伐採され、切り株から萌芽が成長したものであろう。

かって周辺は水 田地帯であり、水 田の畦道に生育し ていたという。

ヤナギは湿地に多く、芽吹きの美しさは日本的情景をつくり、早春の川岸、湖畔などを彩る。

市内では、他に コゴメヤナギ・ジャ ヤナギなども見ら れる。

⑥ 大手八幡神社のクロガネモチ

モチノキ科 常緑広葉樹(雌雄異株) 福井以西~沖縄に分布

根元周 324cm 樹高 約18m 樹齢(推定150年)

所在地 大手町 1



このクロガネモチは拝殿東側社叢の中にあり、樹幹は見事に含着(連理)し途中大きな窓の様になっている。これだけの立派な連理は市内でも珍しい。縁結びや夫婦の絆の神が宿る珍木ともいえよう。

この地は段丘田楽面の南西末端部に位置し、社叢はツクバネガシ・ツブラジイなどの照葉樹林で緑濃く覆われていた。しかし、近時境内の西側は伐採され疎林となっている。

境内の保存樹は、ヒノキ3本(225 cm・180 cm・157 cm)・ツクバネガシ3本(180 cm・167 cm・138 cm)・シラカシ(171 cm)・ツブラジイ(250 cm)と、このクロガネモチの9本である。

⑦ 大手八幡神社のシャシャンボ

ツツジ科 常緑広葉樹 関東南部〜沖縄に分布

幹周 151cm 樹高 約4m 樹齢(推定200年)

所在地 大手町 1



名前の由来は丸い小さな実が多数つく様子を「小さい坊や」即ち「小小坊」と呼んだものが転訛 してシャシャンボになったといわれる。

このシャシャンボは拝 殿西側にあり、樹幹はや や前傾し、上部でよく分 枝して繁っている。

シャシャンボは山林、 平地の社寺林などで普 通に見られる小高木であ る。幹周が100cmを超え るものは珍しく市内で3 本を確認するのみであり、 その最大樹である。

初夏に白色筒状の壺型の花を多数下向きにつけ、果実は直径5mm程で晩秋に黒紫色に熟し、甘酸っぱく食べることができ、同属のブルーベリー類と同じくアントシアニンを多く含む。やや乾燥したところに見られる。



⑧ 前並誕生講のクロマツ

マツ科 常緑針葉樹 本州~九州に分布

幹周 275cm 樹高 約17m 樹齢(推定150年)

所在地 前並町147-1



このクロマツは県道27号線西側、 前並誕生講碑の脇にそびえている。

日本の松の仲間は海岸から高山にまで見られるが普通に「マツ」の名で呼ばれているのはクロマツとアカマツである。クロマツは主に暖地の海岸地方に多く、アカマツは内陸の山野に多い。クロマツの樹皮は灰黒色で厚く、針葉もアカマツより硬く、枝振りも太いことから、別名「雄松(オマツ)」とも呼ばれている。

前並の誕生講は、牛山新田の丹羽多治右衛門が覚明行者(御嶽信仰の祖·牛山出身)を崇敬し、天保3年(1832)牛山で誕生講を結社した。その後、隣地の前並の有志が明治4年(1871)に前並誕生講として結社した。



⑨ 両社宮社務所のヤマモミジ

カエデ(ムクロジ)科 落葉広葉樹 北海道~本州(日本海側)に分布

根元周 238cm 樹高 約10m 樹齢(推定250年)

所在地 宮町 8-1



このヤマモミジは社 務所の裏庭にあり、地 上50cm程で幹が2本 (147cm・110cm) に 分れている。

ヤマモミジは日本 固有種で日本海側の 多雪地の山地谷間に 多い。イロハカエデと よく似ているが比べる と葉や果実がやや大 きく、鋸歯が不ぞろい な欠刻状である。

江戸時代から明治にかけ、ヤマモミジ系・イロハカエデ系・オオモミジ系などの園芸品種が作り出され広く親しまれている。

社務所前には イチョウの保存樹が 2本(178 cm·140 cm) 左右にある。

⑩ 両社宮のツブラジイ

ブナ科 常緑広葉樹

関東以西~九州(南限は屋久島)に分布

幹周 409cm 所在地 宮町 1

樹高 約15m 樹齢(不詳)



当神社は慶安元年(1648)に八幡社、慶 安3年(1650)熱田社を勧請し、元禄3年 (1690)に両社宮とした。一時期「和爾良神 社両社宮 と呼ばれた時期もあった。

このツブラジイは参道西 側(小学校側)の中程にあり、 幹の上部が伊勢湾台風で 折損し朽ちているが、樹勢 旺盛でしつかり根を張り堂々 たる風格を備えている。

社叢には他に保存樹が 12本ある。

> ツブラジイ (468cm) ツブラジイ (320cm)

上記2本は神社裏「春日 井地区学習等供用施設」西 脇にある。

アラカシ (345cm) ツクバネガシ(199cm) イチョウ (197cm) ヒノキ (180cm) 等がある。



① 宗法町墓地のソメイヨシノ

バラ科 落葉広葉樹 日本各地に植栽

幹周 314cm 樹高 約9m 樹齢(推定70年)

所在地 宗法町宗法



このソメイヨシノは県道名古屋・犬山線(旧稲置街道)西、県営名古屋空港南東隅の墓地に、一本大きく樹冠を広げている。

桜前線や開花宣言にはソメイヨシノを観測対象としている。(北海道地方の北部及び東部は、エゾヤマザクラまたはチシマザクラ。沖縄・奄美地方はカンヒザクラ)

ソメイヨシノは、江戸時代末期に登場し、明治 以降に全国各地に広まり、サクラの中で最も多く 植えられた品種である。

起源はオオシマザクラとエドヒガンの雑種説が 有力だが、自然交配説・人工交配説・独立種説 など色々の説があり論争は当分続きそうである。



② 横井宅のクロガネモチ

モチノキ科 常緑広葉樹(雌雄異株) 福井以西~沖縄に分布

幹周 269cm 樹高 約13m 樹齢(推定260年)

所在地 中新町1-6-6



このクロガネモチは地上3mほどから地面と平行に横枝が10m程伸びており、いわゆる「門かぶりの松」の様な役割を果たしている。



この地は寛文年間(1661年)以降、新田開発がすすみ、かっては広い屋敷林が点在していた。旧家の庭には枝打ちに強く風格を備え、また縁起の良い名(クロガネモチ)の樹として各所に残っている。

「門かぶり」は、江戸時代、家の格式により門の形式も決まっていた為、屋根付き門の代替えに松・槙などを屋根風に仕立てたのが始まりとされ、クロガネモチは珍しい。

③ 太清寺のエノキ

ニレ(アサ)科 落葉広葉樹 本州~九州に分布

幹周 293cm 樹高 約20m 樹齢(不詳)

所在地 勝川町2-1653



このエノキは西門 の脇に堂々とそびえ ている。

境内にはクスノキ・クロガネモチ・ムクノキ・エノキ・カシ類などの高木も多くこの地区では一番の叢林をなしている。

天正12年(1584) の小牧長久手の戦いで、徳川家康が当地で小休止した際、 徒歩川(勝川)の名は縁起が良いと喜び、阿弥陀堂で必勝祈願をしたと言われる。

当寺はかって天 台宗龍源寺であっ たが、慶安4年 (1651)臨済宗妙心 寺派の寺として再建 され太清寺と改めら れた。

(4) 高橋宅のクスノキ

クスノキ科 常緑広葉樹 関東以西~九州に分布

幹周 541cm 樹高 18m 樹齢(推定60年)

所在地 桃山町2-348



このクスノキは屋 敷の東南にそびえている。

所有者に伺ったところ「昭和27年に植えたもの」とのこと。

昭和50年度の保存樹の登録記録によると、幹周は 168cmであったが、平成26年には541cmへと成長している。日当たりや土地の条件が良かったものと思われる。

クスノキは古くから社寺に植えられ巨木が 各地に見られる。

クスノキは寿命が長く、巨大になるので、 建築・家具・船舶・彫刻材として利用され、 公園や街路樹にも用いられる。

クスノキの語源は、樟脳をとり、香料・殺虫剤・防臭剤などにすることから「クスリノキ(薬の木)」といわれ、漢名「樟」の「章」は「高く伸びる」を表し、「楠」は「南方原産の木」を表す。



⑤ 名城大学農学部のケヤキ

ニレ科 落葉広葉樹 本州~九州に分布

幹周 427cm 樹高 約15m 樹齢(推定100年)

所在地 鷹来町菱ケ池4311-2



このケヤキは農学部北の境に沿って列植されている樹の中の一本であり、幹周が市内第1位のケヤキである。

周りの木々も幹周 300cmを越すものが 多い。

ケヤキは日本の代表的な高木で、春日井市の「市の木」に指定されている。

名前は木目の美しさから、けやけし(際立っている)に由来し「けやけき木」の略。古くは、材が硬いので、つよき(強木)から、ツキ(槻)と呼ばれた。

材は磨けば光沢を 生じ、硬くて狂いが少

ないので建築・装飾・器具材として利用される。

この地は更新世の段丘田楽面末端の地で、かっては松林であった。戦時中は鷹来工廠、戦後は学校や工場・市体育館等が建設されている。

(16) 名城大学農学部のモチノキ

モチノキ科 常緑広葉樹(雌雄異株) 宮城・山形県以南〜沖縄に分布

幹周 210cm 樹高 約9m 樹齢(推定 100 年)

所在地 鷹来町菱ケ池4311-2





このモチノキは一本立の雌株で、本館前の庭園に植えられている。樹冠が落下傘状に直径15 m程広がり美しい樹形を保ち、樹床にはベンチが置かれ憩いの場となっている。

モチノキは海岸に近い山地に生える常緑高木で、4月頃に黄緑色の小さな花を密につける。果実は直径1cm程の球形で赤く熟す。「鱗の木」と

表記し、樹皮から鳥黐を作ることができ、これが名前の由来となった。

① 町屋神明社のツブラジイ

ブナ科 常緑広葉樹

関東以西~九州(南限は屋久島)に分布

根元周 532cm 所在地 町屋町3550 樹高 約15m

樹齢(推定300年)





このツブラジイは神明社の拝殿右手に立ち、根元付近で3本に分かれている。根張りは幅広く、どっしりと大地をつかんでいる。若木が3本根元から育っている。

境内は下草もなく、ツブラジイ・ヒノキ・クスノキ・クロガネモチ・イチョウ・ケヤキなどの古い樹木が点在している。

この神明社は伊勢講が盛んな頃、代参者の送迎拠点として祀られたと思われる。

(18) 落合公園のクロガネモチ

モチノキ科 常緑広葉樹(雌雄異株) 福井県以西〜沖縄 に分布

幹周 270cm 樹高 約18m 樹齢(推定350年)

所在地 東野町落合池南堤防上





このクロガネモチは公園管理棟の駐車場南東側の堤防上に大きく樹冠を広げ、どっしりと均整のとれた姿を見せている。

樹齢は、はっきりしないが池の築造当時からとすれば、350年程となろう。

風雪に耐え池の様々な歴史を眺め続け人々にも愛されてきた落合池の主である。

かってこの辺りには、クロマツの大木(水神の森)や、伊勢塚の森も見られたが、土地区画整理により、落合池は水辺公園となり、時代と共に周りは大きく変貌していった。

(19) 落合公園のソメイヨシノ

バラ科 落葉広葉樹 日本各地に植栽

根元周 366cm 樹高 約8m 樹齢(推定80年)

所在地 東野町 落合池南堤防上



このソメイヨシノは落合公園の落合池改修記念碑の西 50m程の旧堤防上にあり、日当たりや通風など生育環境が良いことから大きく成長した。

ソメイヨシノ(染井吉野)は、江戸末期から明治にかけて江戸駒込染井村 (現在東京都豊島区)の植木屋から、はじめ「吉野桜」の名で売り出されたが、奈良県の吉野のヤマザクラとは種が異なり、混同を防ぐため、その後発祥地の村名をとって本草学者藤野寄命により「染井吉野」という和名がつけられた。

公園には種々のサクラが植栽されており、平成元年には、「日本の都市 公園 100 選」の 1 つに選定された。

落合池は、江戸時代の「寛文村々覚書」(1672年)に記録が見られる。その後、周りの開拓に伴い、池が拡大されたり、堤防が補強されたりしている。

20 覚成寺のヒガンザクラ

バラ科 落葉広葉樹 本州~九州に植栽

幹周 248cm 樹高 約12m 樹齢(推定150年)

所在地 朝宮町1-23-3



このヒガンザクラは覚成寺の本堂前に堂々と枝を張っている。以前は、自然環境に恵まれていたが、近年は区画整理などで開発が進み、寺の周囲にあった見事な叢林は消滅した。

このヒガンザクラは樹形や花も奇麗なところから開花時には多くのカメラマンがおとずれる。

ヒガンザクラは「コヒガン」とも呼ばれ、マメザクラとエドヒガンの雑種と推定され広く栽培されている。

② 小木田神社のツクバネガシ

ブナ科 常緑広葉樹 宮城・富山県以西~九州に分布

根元周 425cm 樹高 約8m 樹齢(不詳)

所在地 小木田町147



このツクバネガシは境内左側にあり、幹は4本(167cm.140cm・133cm・108cm)に株立ちし、各幹は長い間の風雪に朽ち、空洞ができているが、新しい枝を伸ばしている。生命力の強さと老樹の風格が備わっている。

境内にはクロガネモチの大木・イロハカエデの古木・ツクバネガシ・ヤブツバキ・リンボク・植栽樹のトウカエデ・ヒノキ・クスノキなどが見られる。

当社は、養老3年(719)の創建と伝える古社であるが、社叢はかっての 面影は消え、明るい境内となっている。

② 大日さまのトウカエデ

カエデ(ムクロジ)科 落葉広葉樹 日本各地に植栽

幹周 337cm 樹高 約15m 樹齢(不詳)

所在地 上条町4-2181-1



このトウカエデは和爾良神社 の境外社大日社が祀られている 境内にある。

かっては「大日の森」と呼ばれ 樹木が茂っていた土地であった が疎林と化している。

トウカエデ(唐楓)の名が示すように、中国東南部原産。日本には 18 世紀はじめに渡来し、樹勢が強く紅葉が美しいので街路樹に多く用いられている。

境内には他に、トウカエデ (315cm)・ムクノキ(225cm)の 保存樹がある。

なお、当境内には「小野道風 発祥の地」の碑が建っている。



【小野道風発祥の地」の碑】

② 大光寺のクロガネモチ

モチノキ科 常緑広葉樹(雌雄異株) 福井以西~沖縄に分布

幹周 278cm 樹高 約5m 樹齡(推定370年)

所在地 上条町8-3618





このクロガネモチは雌株で本堂前に立っている。 大正3年(1914)の火災で北側半分が焼け焦げ、 空洞化した主幹はセメントで補修され痛々しく見える。 樹下には、「小野道風お手植えの樹」の石碑がある。 境内には、他にクスノキ(212cm)の保存樹もある。

大光寺は小牧長久手の戦い(天正12年(1584))の折全焼し、正保2年(1645)復興し、また大正3年に火災にあっている。「道風お手植えのクロガネモチ」は、天正の火災で焼失し、再興時に植えた2代目ではなかろうか。

② 和爾良神社のクスノキ

クスノキ科 常緑広葉樹 関東以西~九州に分布

幹周 468cm 樹高 約10m 樹齢(不詳)

所在地 上条町8-3619



当神社は建保6年(1218)上条城主小坂孫 九郎が復興再建したと伝えられ、上条城主の末 裔をはじめ村人たちにより存続されてきた。この 地は、平安時代の書家小野道風の出身地の伝 承があり、「小野道風生誕の地」の碑がある。 このクスノキは本殿 左奥に大きく枝を張っ ている。

境内は伊勢湾台風で多くの樹木が倒れ、 隣接の大光寺も含め 疎林となった。

境内には他に、ムク ノキ(255cm)・クロガネ モチ(146cm)の保存 樹があり、市内で珍し いニガキ(78cm)もあ る。



② 小野小学校のクロガネモチ

モチノキ科 常緑広葉樹(雌雄異株) 福井以西~沖縄に分布

幹周 210cm 樹高 約7.5m 樹齢(推定120年)

所在地 小野町5





【十五の森】

このクロガネモチは雌株で運動場の東端に大きく 樹冠を広げている。

この樹は元「十五の森」にあったものを明治25年 (1892)に松河戸にできた小野尋常小学校に移植。 その後、昭和4年小野小学校が現地に移転した折、 再度移植されたものである。

「十五の森」とは、明応3年(1494)庄内川の氾濫を治めるため、人柱となった15歳になる庄屋の娘の霊を慰めた跡地。この跡地は、愛知電機東駐車場の一角にあり、一般の人も供養に入場できる。民話と共に皆で守られている。

26 松河戸白山神社のタブノキ

クスノキ科 常緑広葉樹 本州~沖縄に分布

幹周 272cm 樹高 約10m 樹齢(不詳)

所在地 松河戸町669



このタブノキは本殿 裏に御神木としてそび え、幹周が市内第1 位のタブノキである。

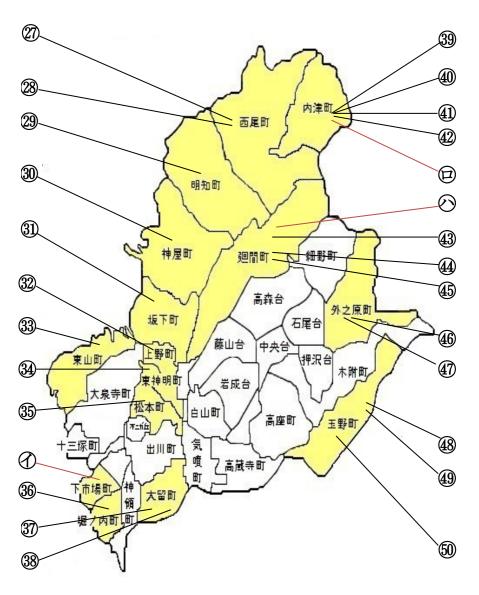
根元には空洞が生じているが、樹勢は良く、環境変化に耐え凌いでいる。

タブノキは主に海岸 付近に生育し暖帯林 の構成樹種の一つが 多く、乾かして粉にするとタブ粉が得られる。 タブ粉は線香の粘結 材として用いられ、樹 皮や葉は染料に用い られる。

この地域は庄内川 氾濫原の低地であり、 緑豊かで大木も多く見 られたが土地整理事 業等で消滅し、以前 の鎮守の森も明るい 疎林と化している。

境内にはアベマキ(277cm)・クスノキ(183cm)の保存樹がある。

(2)東 部 地 域



No.	樹木名	株	幹周	町名	樹木所在地	
IVU.		立	cm			
(1)	タマミズキ		232	西尾町	西尾岩ケ根山中 弥勒山麓遊歩道脇	
28	イチョウ		462	西尾町	天王様(津島神社)脇	
29	ヒノキ		315	明知町	日吉神社 参道を上がりきった左側	
30	アラカシ	0	555	神屋町	八幡神社境内入口右側	
31)	ゴヨウマツ	0	174	坂下町	坂下小学校校庭	
32	エノキ		310	上野町	坂下町1丁目交差点の西側角	
33	ツブラジイ		305	東山町	松原神社拝殿西側	
34)	ツブラジイ		380	東神明町	富士社拝殿裏から鉄塔の手前を南東	
35	クスノキ	0	663	松本町	諸大名神社西方 中部大学との境付近	
36	イチイガシ		248	堀ノ内町	堀ノ内神明神社境内	
37)	アベマキ	0	318	大留町	天導塚公園前の庄内川右岸	
38	カゴノキ		282	大留町	子安神明社本殿裏	
39	ŧξ		410	内津町	奥の院巌屋神社を祀る洞窟の裏側	
40	シダレザクラ		243	内津町	内々神社庭園北部	
41)	ツクバネガシ		275	内津町	内々神社庭園北側裏口道路際	
42	タラヨウ		211	内津町	見性寺境内	
43	ヤマモモ	0	280	廻間町	大谷山中腹、岩山休憩所上部	
44)	ヤマザクラ	0	410	廻間町	奥山大谷川沿い	
45	カキノキ		235	廻間町	鈴木宅	
46	ヒノキ		300	外之原町	桧峠(県境)の春日井側	
47	イチョウ		396	外之原町	外之原中央公民館横	
48	エノキ	0	566	玉野町	旧中央線6号トンネル西口	
49	イロハカエデ		222	玉野町	旧中央線4号トンネル東口	
<u>50</u>	ツブラジイ		453	玉野町	五社神社社務所裏	
(1)	五輪さまのエノキ		259	下市場町	五輪塔 マンションサンプレイプ南城東隣	
	すべらずの松		共生木	内津町	内々神社境内	
$\langle \mathcal{N} \rangle$	シデコブシ自生地		群生	廻間町	少年自然の家 西の谷	

② 西尾のタマミズキ

モチノキ科 落葉広葉樹(雌雄異株) 福井県以西~九州に分布

幹周 232cm 樹高 約22m 樹齢(不詳) 所在地 西尾町岩ケ根山中 標高約190mの谷川沿いの遊歩道脇



このタマミズキは弥勒山麓遊歩道のNo.25より登り、No.26で左折しNo.27を通過し少し下り、沢を横切って暫くすると道脇にそびえ、ひときわ目につく雄株である。

周辺にはサカキ・コナラ。下層にシキミ・ヒカゲツツジ等が見られる。

タマミズキは、直幹性で成長が良く、雌株の果実は径3mm程の球形の核果で密に付き、秋に赤く熟し落葉後も枝上を美しく飾る。

市内では極めて少ない。

タマミズキ「玉水木」 の由来は、玉は果実の 美しさ、水木は樹形が ミズキに似ていることに よる。

28 西尾の大イチョウ

イチョウ科 落葉高木(雌雄異株) 北海道~九州に植栽

幹周 462cm 樹高 約18m 樹齢(推定 300 年)

所在地 西尾町227



植えた木が孫の時代に実がよく育つことからという。

このイチョウは幹周が 市内第1位のイチョウで、 「西尾の大イチョウ」として知られる雌株である。 根元はやや朽ちているが樹勢は旺盛である。 脇に天王様(津島神社)が祀られている。

古老の話では、この 樹は昔から毎年沢山の 銀杏を実らせ、村人たち は拾って煎って食べたも のだ。また古くは、厄年 の人が厄払いをイチョウ に念じ、厄を皆に拾って もらう風習もあった、とい う。

長い風雪に耐えてきた大樹であり地域のシンボルである。長寿を保ってくれることを願う。

イチョウは中国原産で 公孫樹とも書くが、公は 祖父の尊称で、祖父が

29 日吉神社のヒノキ

ヒノキ科 常緑針葉樹 福島県以西~九州に分布

幹周 315cm 樹高 約21m 樹齢(不詳)

所在地 明知町66



このヒノキは参道を上がりきった左側にあり、地上6mで幹が3つに分かれ高くそびえている。幹周が市内第1位のヒノキである。

神社周辺はスギ・ヒノキが植栽され、社殿の裏山はツブラジイを中心とした社叢となっており、幹周2m以上のツブラジイが3本見られる。

ヒノキは日本固有種で 各地の山林の中に生え、 普通は植林されている。

古くから日本人の生活 と深く結びつき、伊勢神 宮をはじめ神社仏閣等 の建築材として利用され た。また総桧作りの高級 材として称賛され、利用 度が高く大木は非常に 少ない。

ヒノキは「火の木」の意

味で"桧"の字も木をこすり合わせて火を起こしたことからきている。

③ 神屋八幡神社のアラカシ

ブナ科 常緑広葉樹 宮城・石川県以西~沖縄 に分布

根元周 555cm 樹高 約18m 樹齢(不詳)

所在地 神屋町941-1



ネガシ(270cm)・クロガネモチ(180cm)がある。

このアラカシは鳥居から参道に入った境内入口の右側に立ち、地上1mで幹が4本(285cm・203cm・170cm・129cm)に大きく分れている。市内第1位のアラカシである。

果実は球状楕円形で、 堅果(どんぐり)と呼ばれる。

アラカシは「粗カシ」で、 枝や葉がシラカシに比べて 粗いからであろう。「カシ」は 材が堅いことから「かたし」 が転訛したものである。和 字の「樫」は「堅い木」を合 わせて作られた。

社域の東側から北側は ヒノキの植林で、林内に点 在するツクバネガシ・アラカ シなどの古木はかって自然 林構成種の残存である。

境内の保存樹は、他に アラカシ3本(223cm・ 194cm・180cm)と、ツクバ

③1 坂下小学校のゴヨウマツ

マツ科 常緑針葉樹 北海道(南部)~九州に分布

根元周 174cm 樹高 約18m 樹齢(推定200年)

所在地 坂下町5-324



このゴヨウマツ(ヒメコマツ)は校舎南側に雄姿を見せている。その隣にクスノキ(310cm)の大木も見られる。



【旧校舎玄関前】

この樹は明治の中頃地元の人から寄贈され、 大正2年に学校が現在地に移転した時も同じ く移植された。昭和34年9月伊勢湾台風で 倒れたが、学校・地域あげての努力でよみが えった。

昭和35年、坂下尋常高等小学校の65周年祭の学校劇「五葉松は知っている」がCBCテレビで放映された。学校のシンボルとして、長年にわたり地域の人々に愛されている。

③ 坂下町一丁目交差点のエノキ

ニレ(アサ)科 落葉広葉樹

本州~九州に分布

幹周 310cm 樹高 約22m 所在地 上野町「坂下町一丁目交差点」西側

樹齢(不詳)



このエノキは交差 点西側角にある小高 い塚上に立ち、堂々 とした枝振りで周りに は障害物がなくよく目 立つ。幹周が市内第 2位のエノキである。

かつてこの地点には、 上野町の旧墓地があり、このエノキがその 入口に墓地を見守る ように立っていた。

エノキは、古くは鬼神・邪霊を避ける神の 木として信仰の対象とされ、神社、村落の境界などに植えられた。小正月にエノキに餅をつけ餅花として飾る風習もこの名残であるう。

日当たりの良い場所を好み、秋に果実は橙褐色に熟し食べられる。

③ 松原神社のツブラジイ

ブナ科 常緑広葉樹 関東以西~九州(南限は屋久島)に分布

根元周 305cm 樹高 10m 樹齢(不詳)

所在地 東山町2263



このツブラジイは神 社拝殿の西側にご神 木として祀られ、幹は 径60cm程が朽ち、 空洞が出来ている。

倒木対策として、 枠で補強されている が、毎年新芽を出し、 枝が拝殿の屋根に触 れるたび剪定され保 護されている。

境内は1万㎡以上 と広く、クロガネモチ・ アベマキ・カシ・クスノ キなどの大木やモッ コク・サカキ・ツバキ・ ヒノキなどで社叢をつ くっている。

当社の創建は、和 銅4年(711)であり、 かっての篠木庄の郷 社として信仰を集め ており、この木もかな り古くからあったと思 われる。

③ 東神明冨士社のツブラジイ

ブナ科 常緑広葉樹 関東以西~九州(南限は屋久島)に分布

幹周 380cm 樹高 約20m 樹齢(不詳)

所在地 東神明町字猪ノ洞706-1



このツブラジイは富士 社の表参道(162 段)を 上り、山頂の社殿の裏から鉄塔に向い10m程下る と、駐車場からの遊歩道 と合流する。これを北東 (右)に谷に向って遊歩道 を50m程下った左手にある。

地上7m程で幹が5つに分かれ大きく天にそびえる。周りは柵で囲われ保護されている。

谷に沿った東向き斜面はツブラジイを優占した林で大木が30本以上、下層にサカキ・リンボク・アオキ、林床にはヤブコウジの群生やセンリョウ・マンリョウなどが見られる。

平成22年度には愛知県の「あいち森と緑づくり森林整備事業」によって遊歩道などが整備された。富士社表参道は県道(旧19号)の「東神明町」の信号を坂下方面に150mほどいって左折してすぐのところにある。



③ 諸大名神社西方のクスノキ

クスノキ科 常緑広葉樹 関東以西~九州に分布

根元周 663cm 樹高 約18m 樹齢(不詳)

所在地 松本町1106-1



このクスノキは諸大名神社社叢の南西、児童遊園の西、中部大学との境界近くにそびえ、9本の株立ちで、幹周は太い順に(200cm・198cm・178cm・174cm・160cm・145cm・130cm・115cm・113cm)である。

この一帯は市の保存林に指定されており、ツブラジイを優占種とする照葉樹林の残存である。

平成21年度には、愛知県がこの社叢一帯を「あいち森と緑づくり事業」として里山林整備を実施し、遊歩道も整備された。



36 堀ノ内神明神社のイチイガシ

ブナ科 常緑広葉樹 関東以西の太平洋岸~九州に分布

幹周 248cm 樹高 約19m 樹齢(不詳)

所在地 堀ノ内町2-1-10



このイチイガシは拝 殿に向かって右側に 立っている。

本殿を囲む社叢にはスダジイ(253cm)・クスノキ(342cm)など大木が数本あるが疎林と化してかっての面影はない。

イチイガシは暖地に自生し大きいものは高さ30mに達する。 長命で、しばしば神社に植栽されるが県内では珍しい。

市内では他に、伊 多波刀神社に1本、 岩野の屋敷に1本を 確認するだけの貴重 な樹種である。

和名は「一火樫(イチヒガシ)」でカシ類の中では最も強い火力が得られることから。

また、カシ類の中でもっとも材質が良いことから(一位樫)と名付けられたとも 言われている。

③ 天導塚公園前のアベマキ

ブナ科 落葉広葉樹 山形県以西~九州に分布

根元周 318cm 樹高 約18m 樹齢(不詳)

所在地 大留町6



このアベマキは公 園前の庄内川右岸 にあり、2本の株立ち (210cm・187cm)で ある。

アベマキはコナラと 共に雑木林の代表 的な樹種で、薪炭と して利用されてき た。

アベマキは痩せ 地にもよく成ち上がる ことが多い。別言とが りりスギとも が真直ぐ立ち上がる ルククヌギとも 対に見えることから、 「アバタマキ」となった と言われる。

また、「どんぐり」のなる樹で、どんぐりはカシ類・コナラ類の果実の俗称である。

38 子安神明社のカゴノキ

クスノキ科 常緑広葉樹(雌雄異株) 本州〜沖縄に分布

幹周 282cm 樹高 約17m 樹齢(不詳)

所在地 大留町5-27



この地は庄内川右岸の、川床から数メートル高い自然堤防上にある。

この神社は、天文15年(1546)村瀬作右衛門が大留城築城の折、守護神として祀った神社といわれる。

このカゴノキは本殿裏にあって大きく樹幹を広げている。境内の東側にも数本見られるが、これは昭和の中頃植樹したものであ

る。

カゴノキは樹皮が鹿の子斑となることから 名付けられた。



③ 内々神社奥の院のモミ

マツ科 常緑針葉樹 秋田県以西~九州に分布

幹周 410cm 樹高 約25m 樹齢(推定200年)

所在地 内津町北山 巌屋神社裏



このモミは奥の院 巌屋神社への方 を世界望台を 150m程手前の一 向斜面山腹に一が、 高くそびえているが、 現在先枯れが進 し枯れつつある。

モミは日本固有種 で市内での自生は 極めて少ない。

この巌屋神社の一帯は、シイ・カシ・タブの照葉樹林からなり、中に針葉樹のヒノキ・ツガ・モミが混生している。

かって、岩壁にはマメヅタラン、樹上にはカヤラン・ヨウラクラン・クモランなどの着生ランが見られたが、環境悪化で絶滅したことは惜しい。

40 内々神社のシダレザクラ

バラ科 落葉広葉樹 日本各地に植栽

内津町24

所在地

幹周 243cm 樹高 約20m 樹齢(不詳)



このシダレザクラは本 殿裏の庭園奥の磐座の 元に高くそびえ、春には 枝垂花火のように優美 な花を咲かせ庭園を彩 る。幹周が市内第1位 のシダレザクラである。

シダレザクラは、イトザ クラとも言われ、エドヒガ ンの枝が垂下がる品種 で、平安の昔から寺院 や庭園などに植えられ、 名桜として残っているも のが多い。

この庭園は、夢窓国師作と云われ、周りの天狗岩・巨石群を巧みに生かし、丸池には石組の出島を配した、回遊式林泉型の庭園である。

天狗岩と池との間に はスギやカエデが繁り、 静寂の趣を呈している。

(1) 内々神社のツクバネガシ

ブナ科 常緑広葉樹 宮城・富山県以西~九州に分布

幹周 275cm 樹高 約15m 樹齢(不詳)

所在地 内津町 内々神社北裏 天狗岩西



このツクバネガシは庭園北側裏口の道路際にそびえており、幹周が市内第4位のツクバネガシである。

市内の丘陵山地には、ツクバネガシ・アラカシ・ウラジロガシ等、常緑カシ類が普通に見られるが、この付近は特に、山麓から山腹にかけて幹周200cm~400cmのツクバネガシが多数あり、山腹から尾根にかけてはツブラジイが優占種となっている。

名前は、枝先の葉が輪状に並び衝羽根に似ることから。 カシとは"かたし"堅い木の意味である。

ツクバネガシの材は重く、 紫檀の模擬材にされたり、木 目が美しいので器具材・楽 器材・床柱などに利用され る。

10m 奥に 305cm のツクバ ネガシがあるが枯れかかって いる。

② 見性寺のタラヨウ

モチノキ科 常緑広葉樹(雌雄異株) 本州(静岡県以西)~九州に分布

幹周 211cm 樹高 約13m 樹齢(推定500年)

所在地 内津町165



別名、エカキシバ・ジカキシバとも呼ぶが、これはタラヨウの葉の裏に細い棒で絵や字を書くと、褐色反応により黒く浮き出てくるからであり、「葉書の木」とも言われ、郵便局のシンボルツリーともなっている。

このタラヨウは石段を上がった右端にあり、樹勢旺盛な雄株で、幹周が市内第1位のタラヨウである。

寺院によく植えられ、また、晩秋に赤い実が多数 集まって美しいため庭園 樹として用いられている。

尾張地方でも山林内でまれに見ることがあるが、これは逸出したものが生育したものである。

タラヨウの名前は、葉に経文を書き写したというインド産の「貝多羅樹」になぞらえて"多羅葉"と名づけられた。



43 大谷山のヤマモモ

ヤマモモ科 常緑広葉樹(雌雄異株) 関東南部以西~沖縄に分布

根元周 280cm 樹高 約13m 樹齢(不詳) 所在地 廻間町 大谷山山腹 岩山休憩所より大谷山登山道5分登る



このヤマモモは大谷山西斜面、中腹稜線沿いの岩場の上にあり、5本の株立ち(117cm・100cm・90cm・80cm・65cm)の雄株である。

ヤマモモは春に開花し、果実は球形で多汁質の突起が密生し、初めは 緑色で、初夏に熟すと暗赤色になる。サイズは直径1.5cm内外。実は甘酸 っぱく、ジャムや果実酒に加工される。

漢名は「楊梅」。樹皮を乾燥させたものは「楊梅皮」と呼ばれ、漢方では解毒や止血・下痢止め等に用いられる。また、タンニンを含むので、草木染にも使われる。

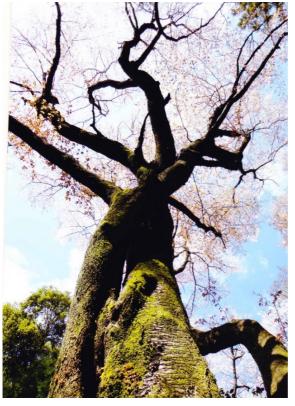
市内東部丘陵にも点在しているが、かって丘陵砂防の治山事業の折り、根に根粒菌が共生するので、やせ地に育つ樹として植えたものであろう。

(4) 奥山のヤマザクラ

バラ科 落葉広葉樹 宮城県以西~九州に分布

根元周 410cm 樹高 約18m 樹齢(不詳)

所在地 廻間町奥山



このヤマザクラは植物園前の県道を北に500m程の大谷川を渡る西の谷間に数本並んでいる中の最大樹である。幹が3本(150cm・155cm・240cm)に分れ、2か所で合着(連理)している。市内第3位のヤマザクラである。

樹床にはタチツボスミレが群落をつくり、ヤマザクラと共に春を彩る。

ヤマザクラは日本の 野生のサクラの代表で、 若葉と同時に開花する。 また、幼葉は赤み掛か る。

ヤマザクラは寿命が長いため、かなりの大木となる。

日本はサクラの国と言われ、世界に類を見ないほど多数の栽培品種が存在する。

「敷島の大和心を人間はば朝日に匂ふ山桜花」(本居宣長)と詠まれ、桜は日本を象徴する花である。

(45) 鈴木宅のカキノキ

カキノキ科 落葉広葉樹 本州(西部)~九州に植栽

幹周 235cm 樹高 約10m 樹齢(推定200年)

所在地 廻間町562



このカキノキは、 幹周が市内第1位 のカキノキで、江戸 時代からの樹であ る。

渋柿が大木として残存していることが珍しく貴重なものである。

このカキノキからは、良質の柿渋が採れるので、岐阜の傘屋と契約していた程である。

果実はピンポン 玉より小型で、家 人は「ホオズキガキ」 と呼んでいた。

伊勢湾台風(昭34年9月)で幹が 地上5m程のところ で折損し、そこから 萌芽が生長してい る。

樹幹の一部に空洞があり、そこに現在ニホンミツバチが生息している。

46 桧峠のヒノキ

ヒノキ科 常緑針葉樹 福島県以西~九州(屋久島)に分布

幹周 300cm 樹高 約20m 樹齢(推定200年)

所在地 外之原町 桧峠



このヒノキは桧峠(標高291.9m)の岐阜県との県境にあり、「一本桧」としてそびえ良く目立ち、幹周が市内第2位のヒノキである。

枝振りは見事でおよそ6 m幅にわたって枝をのばす が、南東側の枝が越境し ないようにしたものか欠損 している。

峠の北西側はヒノキ林、 南東側はヤマザクラを始め とした落葉広葉樹林であ る。

峠は昔から春日井市の 外之原町と多治見市の三 の倉を結ぶ生活の道で、 また内津と定光寺を結ぶ 東海自然歩道が通ってい る。

外之原の古老の話では、 子どもの頃からあまり大きく

なっていないという。かって、峠の外之原側はヒノキの良林があった。戦時 軍事用材として大木は供出、戦後は東谷橋の建設用材として伐採されたと のこと。このヒノキは峠の目印として残されたものであろう。

4 外之原の大イチョウ

イチョウ科 落葉高木(雌雄異株) 北海道~九州に植栽

幹周 396cm 樹高 約18m 樹齢(推定180年)

所在地 外之原町2156-1



以降は街路樹としても活躍している。刈り込んでも再生力があり虫害、乾燥、排気ガスにも強く寿命も長い。また秋に黄金色に輝く並木の黄葉は美しい。

現在日本の街路樹植栽数高木の部、第1位である。

このイチョウは外 之原中央公民館前 にある雄株で、乳と 呼ばれる気根の一 種が垂れている。

道を隔てた、ナマド神様(八大竜王)と 共に「外之原の大イチョウ」として広く知られている。

イチョウは2億年 以上前(中生代)から存続してきた種で「生きた化石」とも呼ばれる。日本には中 国から鎌倉時代以前に渡来、寺院や神 社に植えられ、明治



【幹に垂れる気根】

48 旧中央線跡のエノキ

ニレ(アサ)科 落葉広葉樹

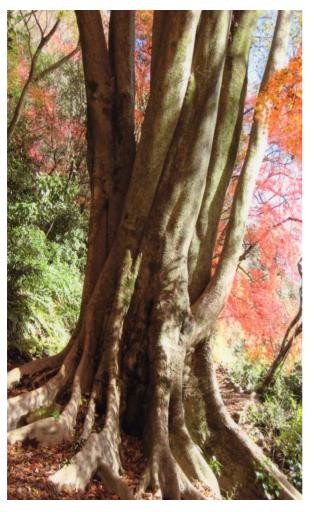
本州~九州に分布

根元周 566cm

樹高 約27m

樹齢(推定200年)

所在地 玉野町東谷



このエノキは旧中央線6号トンネル西口から右に入り、玉野古道へ下りる手前、トンネル腹部斜面に、板根状に根を張っている。

幹は合着(連理)してその上部は数本立ちで高くそびえている。「やまおやじの大エノキ」の看板が立っている。

エノキは、神が宿る 聖なる木・特殊な霊 力のある木として、一 里塚や墓地に植えら れたりした。また、国蝶 オオムラサキの幼虫 の餌ともなっている。

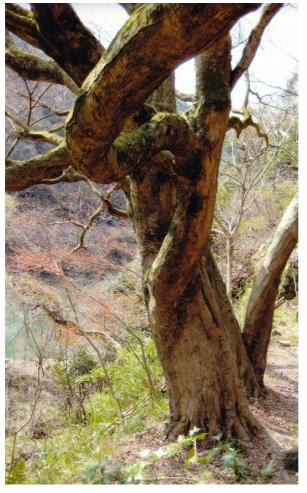
周辺には市内では 珍しいヤマホオズキ (国絶滅危惧種)やヤ ブサンザシ・アブラチャン・キジョランなどが 見られる。

49 旧中央線跡のイロハカエデ

カエデ(ムクロジ)科 落葉広葉樹 福島県以西~九州に分布

幹周 222cm 樹高 約15m 樹齢(推定150年)

所在地 玉野町東谷



このイロハカエデは4 号トンネル東口脇の作 業場跡地に4本(幹周 222 cm·178 cm·151 cm·127 cm)ある中の最 大樹である。

春の新緑、秋の紅葉は美しい。

イロハカエデの由来は、7裂する葉の裂片をイロハと数えることからで、カエデの由来は、葉が「蛙」の手に似ており「カエルテ」が訛ったものと言われる。

京都の高雄山に多いのでタカオモミジとも 呼ばれる。

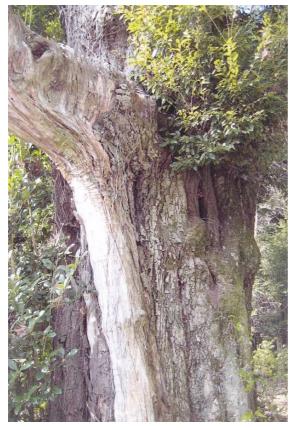


⑩ 五社神社のツブラジイ

ブナ科 常緑広葉樹 関東以西~九州(南限は屋久島)に分布

幹周 453cm 樹高 約18m 樹齢(推定400年)

所在地 玉野町1489



ツブラジイ「円ら椎」の名は、堅果が丸っこいので、「円らな堅果をつける椎」からきていると言われる。

このツブラジイは社務 所の裏にあり、地上4mで 幹が4つに分れ、樹冠は 大きく球状に拡がってい る。幹周が市内第3位の ツブラジイである。

社叢は大部分をツブラジイが優占し見事な林を形成している。幹周2m以上の樹木は25本を数え、正面鳥居を中心に大木が社域に沿って並んでいる。

五社神社の保存樹は、他にツブラジイ18本(390 cm·313 cm他)や、ヤマザクラ(200 cm)などがある。



(3)その他

⑦ 五輪さまのエノキ

ニレ(アサ)科 落葉広葉樹 本州~九州に分布

幹周 259cm 樹高 約7mで伐採

所在地 下市場町4-20-10

樹齢(推定200年)

このエノキは道路 沿い駐車場脇に五 輪塔を背にし、2本 の大木が立ち「五輪 さまのエノキ」として 親しまれている。

エノキは昔から縁 切り榎・縁結び榎・神が宿る・神が宿る・神が 臨する聖なる木として、特殊な霊力がある木とみなされ、一里塚や墓地に植えられている。

この五輪塔は慈制を記事の開基と言える梶田繁政の墓石には寛永5年7月2日成立の東には寛永と「俗源繁政」と記されたものをはいます。この樹はその、近に植えたものか、



この地を去る時、目印として植えたものではなかろうか。

回 内々神社のすべらずの松

「サルスベリとクロマツの共生木〕

サルスベリ:ミソハギ科 落葉広葉樹 クロマツ:マツ科 常緑針葉樹

幹周 [サルスベリ 135cm·クロマツ 45cm] 樹高 約6m 樹齢 [サルスベリ 不詳・クロマツ 推定 50 年] 所在地 内津町24



サルスベリが樹高3.7mの高さで折損し、その折れ朽ちた穴にクロマツが芽生えたのは昭和40年頃であった。このクロマツが不思議とどんどん成長したので春日井市史資料編4(昭48年発行)に掲載された。その後、この共生木の名称公募がなされ、「すべらずの松」と名付けられた。

現在サルスベリの古木の 幹は中が空洞となっているが 枝には美しい花を咲かせる。 マツはこの空洞の中を通り着 地し、樹勢はよい。

近年、合格祈願の木として市内ばかりか県外からの 参拝者も多い。

すべらずの松について

上部は松、下部はサルスベリ(百日紅)の共生木。「サルスベリ」「マツ」を語句に組み入れ、試験や人生で滑ることのないようにという意味で学問における霊験あらたかさと大願成就があるようにと願いをこめています。

内々 すべらずの松 平成3年10月 内々神社文化財保存会

() シデコブシ自生地

モクレン科 落葉広葉樹

伊勢湾周辺地域に分布

所在地 廻間町馬不入



春日井市では、かっては丘陵の湧水湿地や山 裾周辺湿地に普通に見られ、湿地の春を彩る代 表花であった。しかし、丘陵の大規模な開発によ る消滅や、成育環境の悪化により、衰退していく 現状である。 日本固有の遺存植物で、東海三県(愛知・岐阜・三重)の限られた地域のみに自生する貴重な植物である。

周伊勢湾要素(東海丘陵要素)と呼ばれ、 伊勢湾を取りまく丘陵 の谷すじや山裾の温地 に分布する。

環境省のレッドリストでは準絶滅危惧(NT)に指定されている。



市は、少年自然の家西の谷(廻間町馬不入)地域の最もシデコブシがまとまった自生地を平成15年3月に天然記念物に指定している。

本会では保全活動に協力している。

シデコブシの幹は単生又は数本の株立となる。花は3月下旬~4月上旬に葉の展開前に咲き、花弁は多数、外面は白色~桃紫色で内面は白色。

名前は、花びらが垂れ下がった様子が神事の玉串やしめ縄のシデ(垂・四手)に似る事、コブシは果実が拳状の形に似る事に由来する。市内全域の自生数は樹高背丈以上が633株。最高幹周73cmである。

あとがき

春日井の大木・名木 50 選がようやく完成しました。

平成 20 年、当時の波多野茂会長が春日井の巨木、古木、名木など実態を調査しようと提唱され、このプロジェクトがスタートしました。

まず、調査の主体となる春日井市指定の保存樹資料を入手整備 し、市内を東部地区、中部地区、西部地区に分割し、役員を主体に 担当者を決め、会員の方々にもご協力を得て調査を進めてきまし た。

東部地区は道なき山の中までも調査を行い相当な苦労もし、中部・西部は個人宅も多く調査がはかどらないこともありました。

また時間の経過とともに調査木が枯死したり、伐採されたりしたことも多々あり、やはり生き物は時間との勝負との印象も受けました。

調査が一段落したところで資料を整理し一般に公開して「自然保護、緑化推進」の一助となるよう企画を進めてきました。

本書が春日井の自然、地域の紹介、あるいはPRなどの一助となり、 また「自然」にたいして興味がわくようなきっかけともなれば幸いです。

最後に関係者の方々に感謝する次第です。

調査部長 山本哲夫

監修波多野茂調査部長山本哲夫整理編集松原和嗣

○執筆者·調査者(順不同)

○波多野茂 ○大 橋 博 ○山本哲夫

〇寺井正輝 〇井村宣孝 〇稲 垣 勝

○犬 飼 毅 ○長縄秀孝 ○松原和嗣

梶田富正 江口良久 小木曽節子

吉田陽子 桜井京子

参考文献 (順不同)

春日井の植物 春日井自然友の会著 春日井市緑化運動推進協議会 春日井市史·地区誌編·資料編 春日井市 原色日本植物図鑑 北村四郎·村田源著 保育計 標準原色図鑑全集8樹木 岡本省吾著 保育社 寺崎日本植物図譜 寺崎留吉著 平凡計 日本一の巨木図鑑 宮誠而著 文一総合出版 中根洋治著 愛知の巨木 風媒計 牧野富太郎著 日本植物図鑑 北降館 春日井の神社 春日井市教育委員会 山渓ハンディ図鑑 樹に咲く花 山と渓谷社 山渓セレクション 日本の桜 山と渓谷社

愛知の名木 愛知県緑化推進委員会

維管束植物分類表 巴田仁(監):米倉浩司著 北隆館

【発 行】 平成28年 2月 【発行者】 春日井自然友の会